

特集タイトル：南アジア研究と国際政治学の対話

編集責任者：伊豆山真理

本特集号の目的は、南アジア研究から国際政治学に対する問いかけを試み、南アジア研究と国際政治学との間の対話の可能性を示すことである。南アジア発の「非西欧中心の国際関係論」、あるいはグローバル・サウス概念といった理論的研究はもちろんのこと、インドの台頭、南アジア諸国における民主主義の様相などを扱う地域研究からも、幅広く論文を募集する。

『国際政治』で南アジア特集が組まれたのは、「南アジアの国家と国際関係」(127号、2001年5月)が最初で最後であり、すでに20年以上が経過している。前回の特集では第1に、冷戦後秩序におけるインドの立場が定まりつつある時代を背景として、脱植民地から冷戦秩序を経て、冷戦後にいたる南アジア地域秩序が関心の中心となっており、アメリカとパキスタンの同盟、インドとソ連の関係、米印関係が各論文で扱われている。第2に、90年代にみられたアジア太平洋地域における地域協力の加速を背景として、南アジア域内さらにはサブリージョナルな国家間関係、環インド洋地域協力を扱った論文が所収されている。第3に、インド国内政治において、会議派優位から多党制へと移行した時期にあわせて、政党システムを扱う論文も所収されている。

以上の3つの問題意識は、今日も有効と考える。第1に国際秩序の変容と南アジアという切り口は、インドが「新興国」として中国と並んで「アジアの世紀」を牽引するという新たな展開、コロナ禍、米中競争、ウクライナ戦争に対する南アジア諸国の対応など、安全保障からグローバル・サプライチェーンまで多岐にわたる課題を分析する手助けとなる。南アジア研究の視点から国際秩序の変容を問うという任務は、我々に引き継がれたのである。第2に、地域協力に関しては、前回特集時には萌芽的であった海洋の連結性を重視した協力が進展する今日、インド洋中心視点から海洋秩序を問うことも有用であろう。第3に、グローバルな権威主義化が論じられるなかで、インドのみならず、パキスタン、バングラデシュ、スリランカにおける「民主主義」を問うことは、南アジア研究から国際政治学に対する大きな貢献となろう。

このように、南アジア研究は、国際政治学に対して有益なインプットをなし得る潜在性を持つ。南アジア研究から国際政治学に対して、どのような問いかけができるのか、あるいは国際政治学の問いかけに対して南アジア研究からどのような答えを用意できるのか。そのような示唆を与えてくれるような論文の投稿を期待したい。具体的なテーマは、上記の問題意識に限定されない。また、地域研究、国際関係論、歴史学、比較政治、経済学、文化人類学など多様な方法論を歓迎する。

投稿を希望される会員は、論文のテーマと要旨を 600-800 字程度にまとめ、自宅、もしくは勤務先の住所・電話・メールアドレスを明記して、2025 年 6 月 30 日までに、下記の編集責任者にメールでお送りください。テーマとの関連や本特集号の構成などを総合的に勘案し、執筆をお願いする方には 2025 年 7 月 31 日までにご連絡を差し上げます。原稿の締め切りは 2026 年 5 月 31 日、論文の長さは執筆要領に定める計算方法で 2 万字以内です。原稿は複数名の査読者による査読の対象となり、最終的な掲載の可否は査読後に決定します。本特集号の刊行予定は 2027 年 2 月です。

執筆要領は、以下の学会ウェブサイトをご参照ください。

<https://jair.or.jp/wp-content/uploads/documents/shippitsuyoryo.pdf>

テーマに関するお問い合わせやお申し込みは、編集責任者へお願いいたします。

《編集責任者連絡先》

〒162-8808 東京都新宿区市谷本村町 5 番 1 号

防衛研究所 地域研究部アジア・アフリカ研究室

伊豆山 真理

e-mail: izuyama★nids.go.jp; marie.izuyama.y★gmail.com (★を@に置き換えてください)